

水産資源を安定的に利用するための管理手法の開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010086

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



水産資源を安定的に利用するための管理手法の開発

さけますセンター さけます研究部、中央水産研究所 資源評価部、西海区水産研究所 石垣支所

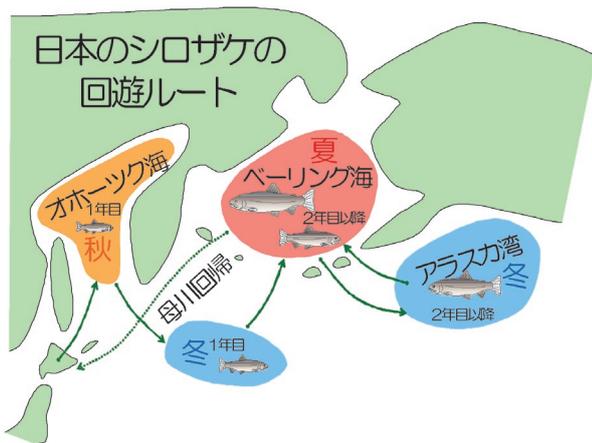
研究の背景・目的

水産資源の適正漁獲量を決定するための生態系モデルの開発、水産資源の管理手法を高度化

研究成果

1. さけ・ます類を鍵種とした生態系・資源動態モデルの開発

- サケ海洋成長は基礎生産により制御、現在のサケ資源水準は適正と判断した。
- サケの河川回帰率変動をモデル化、河川毎の影響要素が明確化。放流時サイズまたは1年目後半の成長量が影響する。
- 夏季ベーリング海での0.2歳魚のモニタリング量で資源量早期予測手法開発。

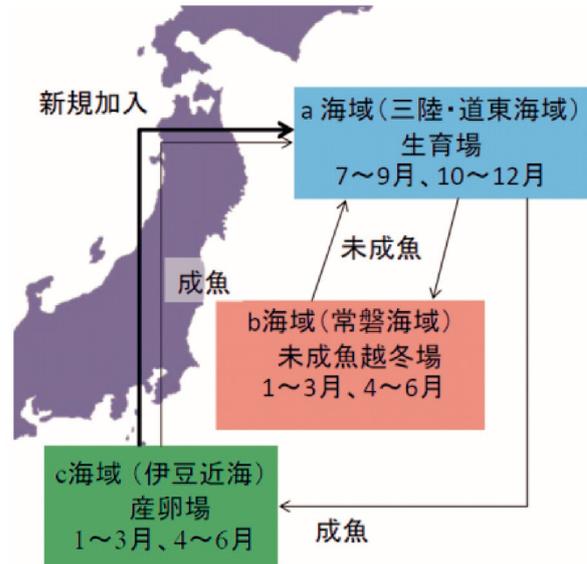


2. イワシ・サバ類等浮魚資源のロバストな管理方策の開発

TAC種を対象に、資源動態モデルを開発し現実的な資源変動に対応した管理方策を提案。1) 資源生物は魚種交替が起こり中長期的な生活史特性の変化は不明な点が多い。2) 資源評価では若齢魚中心の年齢構成で評価や予測の不確実性も高い。3) 管理方策・合意形成には複雑でないこと、さらに経済学的側面(管理へのインセンティブ)も求められる。

- (価値の高い) 9~11月の漁獲に集中し、冬春季の漁獲は抑制することが望ましい。
- 漁期前に、当年の加入水準推定を踏まえた漁獲管理計画議論を行うことが望ましい

との成果を得た。



3. サンゴ礁周辺海域におけるフエダイ科魚類の資源管理手法の提言

サンゴ礁は多種多様な魚種・複雑な海底地形、生息する魚類は場への依存が高い。このような条件の中で、フエダイ類の資源特性と漁獲実態の把握、生態の解明、資源解析を行い、フエダイ類全般については、多様な餌生物が育成できる健全な「場」の保全が大前提。ヒメフエダイ(写真:右)については、5~7歳の漁獲圧軽減、稚魚の成育場保護、保護区設置は非現実的との結論。アミメフエダイ(写真:左)については産卵期のメス個体(大型)保護、保護区と解禁区の輪作が有効との結論を得た。



アミメフエダイ



ヒメフエダイ

波及効果

資源管理手法の高度化による水産資源の持続的利用と有効利用の実現、水産物安定供給の確保。